



きん れい づか こ ふん

金鈴塚古墳



－『金のすず見つけた!』古墳に副葬された宝物－



金鈴塚古墳って何だろう??



こんにちは! 木更津市のマスコットキャラクターきさポンです!!

みなさんは長須賀にある「金鈴塚古墳」って知っていますか?

みなさんの中には、実際に見に行ったことのある人もいますが、これから紹介する「金鈴塚古墳」は、古墳時代に造られた「古墳」と呼ばれる「お墓」のひとつです!

今からおよそ1400年前(6世紀末ごろ)に造られたと考えられ、内部の石室からは、金製の鈴をはじめとする装飾品・飾大刀・鏡・馬具などが出土し、国の重要文化財に指定されています。国宝となっている奈良県の藤ノ木古墳出土品と比べても質や量の豊富さでは決して見おとりすることはありません。

このような素晴らしい『宝物』が木更津市の歴史の中で生まれ、「木更津市郷土博物館金のすず」に展示されています。ぜひ実際にご覧になっていただき、歴史の流れの中に身をおいてみてはいかがでしょうか?

金鈴塚古墳と周辺にある古墳

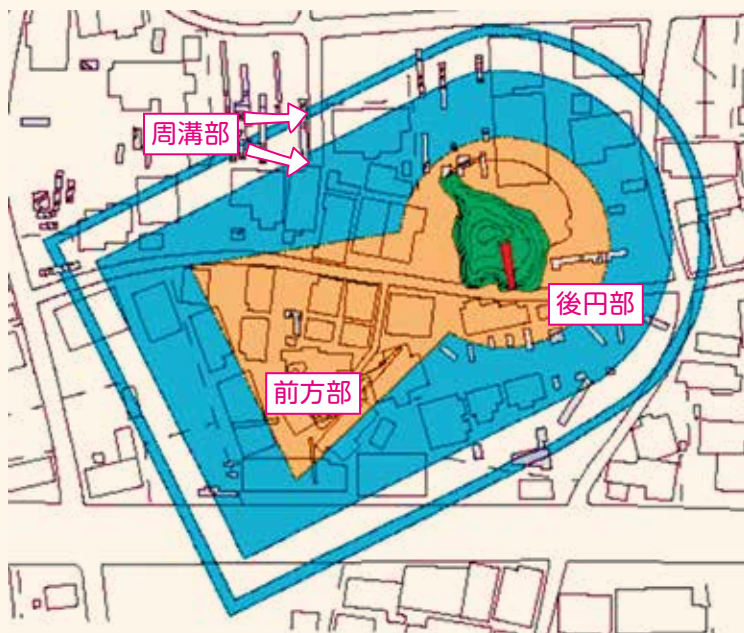


古墳の位置と周辺の古墳

JR木更津駅から北東方向に歩いて15分。距離にして1.2kmの木更津市長須賀の住宅街の中に小さな山を見つけることができます。この付近は、昔から「**浜長須賀**」と呼ばれる地域で、海岸に近い土地でした。金鈴塚古墳の南側には、他にも松面古墳・塚の腰古墳・酒盛塚古墳・稲荷森古墳などの古墳が造られていたと考えられています。

黄色の破線で囲まれたところは、古墳が集まった場所という意味で、「**浜長須賀古墳群**」と呼ばれています。

この古墳群のなかには、6世紀はじめから7世紀前半にかけて造られた首長クラスの大型古墳が分布しています。このうち代表的な5基の古墳は、酒盛塚古墳→稲荷森古墳→**金鈴塚古墳**→松面古墳→塚の腰古墳の順に造られたと考えられています。



金鈴塚古墳全体図(復元図)

古墳の形と大きさ

金鈴塚古墳は**前方後円墳**という形の古墳ですが、前方部は破壊されていることから、現在は後円部といわれる丸い小山の部分が30m程しか残っていません。

これまでに行われた発掘調査や古い地図の解読など、研究の積み重ねにより、全長90m程の大きさで、古墳の周りには周溝と呼ばれる溝で2重に囲まれていたことが分かりました。

その結果、一番外側の周溝を含めた長さは、およそ140mあったと推定されています。

遺物の出土と昭和時代の発掘調査

遺物の出土と昭和時代の発掘

昭和8（1933）年3月、古墳を横切る道路をつくる工事で、石室の入口近く（南側）から、飾履（金銅製の飾り沓）・大刀・鉄鏃（矢の先）・土器などが出土したことがきっかけで、同じ年の11月に発掘調査を行うこととなりました。石室の内部からは、石棺の蓋石が見つかりましたが、くずれ落ちた石室の天井石や壁石が調査の妨げとなってしまうことから、調査を中止したようです。

その後、昭和25（1950）年の4月と7月の2回に、千葉県教育委員会、早稲田大学、地元関係者らによって石室の調査が行われました。

この調査によって石室と石室内に置かれた石棺の中から、金製の鈴や金色に輝く飾大刀、馬具など数多くの遺物が出土しました。

昭和26（1951）年には墳丘と石室の復旧・復元が行われ、3月には、発掘調査の成果をまとめた報告書『上総金鈴塚古墳』が千葉県教育委員会によって刊行されました。



掘り出された石棺の様子



昭和25年第二次発掘調査のメンバー



石棺内部の調査風景

二子塚から金鈴塚古墳へ・・・

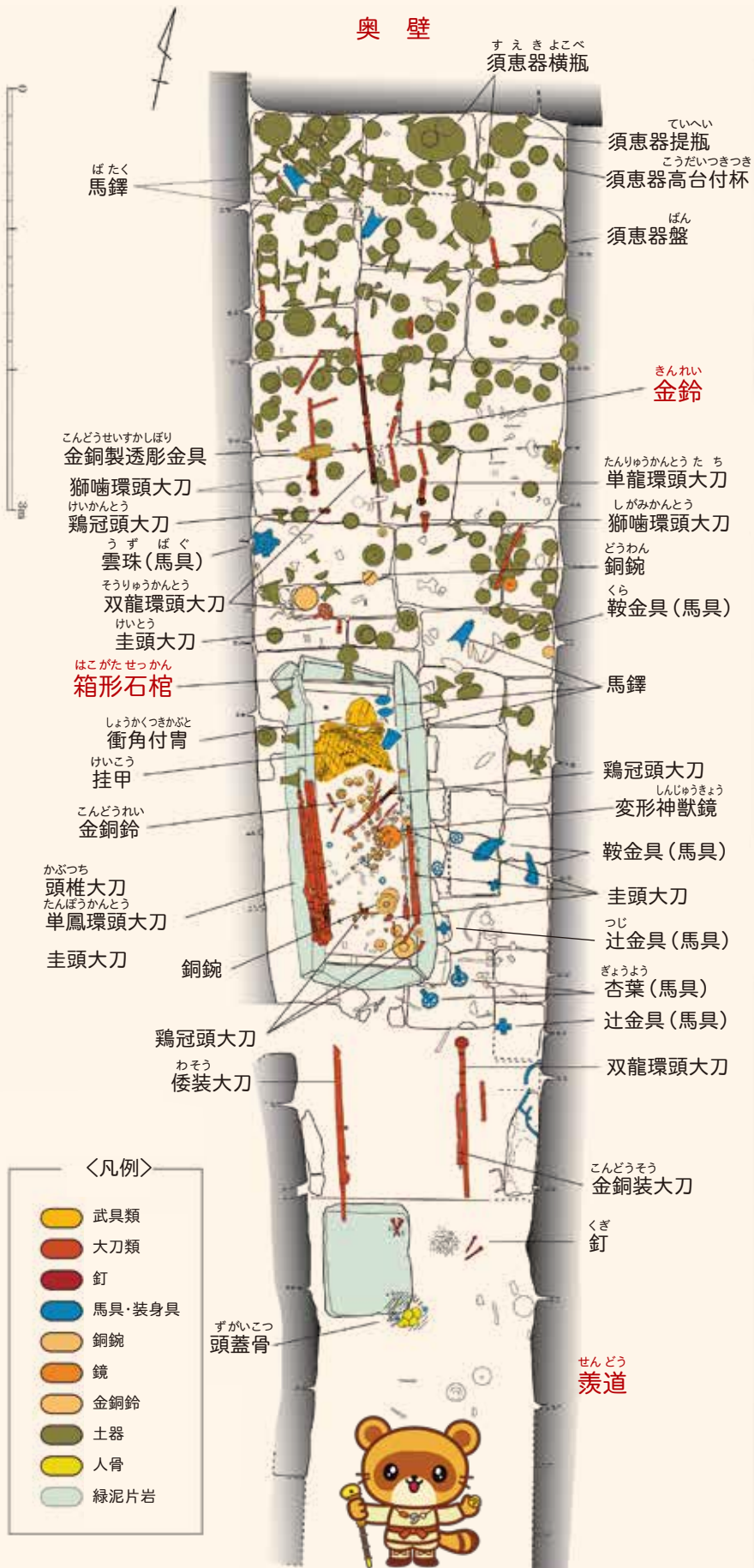
もともと金鈴塚古墳は「二子塚」と呼ばれていました。「二子塚」という名前は、全国の前方後円墳によく使われている一般的な呼び名でした。

昭和25年の発掘調査の時に石室の中から金製の鈴が出土したことから、「二子塚」から「金鈴塚古墳」に変わり、千葉県指定史跡に指定されました。

昭和34（1959）年6月には、出土品と石棺が国の重要文化財に指定され、令和2年9月に千葉県金鈴塚古墳として再指定されています。

名前の由来となった金製の鈴を出土した古墳は、今日に至るまで「金鈴塚古墳」が日本で唯一であることは、木更津市民の誇りとなっています。

発掘された石室と石棺



石室の壁の様子



石室の床の様子



石棺付近から見た石室の様子

金鈴塚古墳石室内遺物出土状況図

石室や石棺に使われた石

石室をつくるために積まれた石は千葉県南房総地方の富津岬南東側の磯根崎付近に産出する「凝灰岩」（富津磯石）が使われています。

また、石棺は100km以上離れた埼玉県秩父地方の荒川上流域（長瀬付近）から運ばれて来た「緑泥片岩」（秩父青石）を組み合わせで造ったことが、これまでの調査や研究の成果から分かっています。

これらの石は、船などを使って運ばれてきたのか？それとも、人々が担いで運んできたのか、はっきりとしたことは分かっていませんが、遠く離れた南房総や秩父との関わりや交流の一部を知ることができます。



磯根崎付近に分布する凝灰岩



長瀬付近に分布する緑泥片岩

(写真は埼玉県立自然の博物館提供)

金鈴塚古墳から分かること

古墳をつくること

古墳をつくるためには、大規模な土木工事などさまざまな作業と労働力が必要です。

古墳を設計するためには、測量や土木技術などの知識が必要となりますし、石などの材料を集める人、土を掘ったり、運んだり、盛ったりする仕事をする人もたくさん必要です。

また、古墳の中におさめるさまざまな装飾品や土器などをつ

くったり集めたりするためには、優れた技術者や多くの人々に命令をして働いてもらうこととなるため、大王や首長は、国を治める大きな力が必要であったと考えられています。

古墳の主として葬られた大王や首長達の力の大きさは、古墳の大きさや古墳の中から見つかる「宝物」などを調べることで知ることができます。



太古の眠りから目覚めた古代の宝物



石棺の中の出土状況



石室の中で見つかった土器

昭和25年の発掘当時の写真からも分かるとおり、石室や石棺の中からは足の踏み場もないほどの「宝物」が3000点余り見つかっています。その種類はさまざまで、金製の鈴、鏡、玉類などの装飾品、大刀や冑・鎧などの武器や武具、馬を飾りつけた馬具、仏教に関係する道具、須恵器を中心とした土器類といったものでした。

金のすず

右の写真は「金鈴塚古墳」の名前の由来となった5個の金製の鈴です。

鈴の大きさは1円玉の1/2のおよそ1cm、重さは1円玉とほぼ同じおよそ1gで、この鈴に使用された金の純度は98%で、ほぼ純金です。



装飾品

左は勾玉などの装飾品です。瑪瑙という石で作られた勾玉や琥珀という石やガラスで作られた玉類などが見つかりました。

当時の人々もおしゃれに気を使っていたのでしょうか？



武器・武具



飾大刀

左の上段と下段の刀は「^{かざりた}飾大刀」と呼ばれるもので、19本のさまざまな形の刀が見つかっています。ひとつの古墳からの出土数では日本一で、他の古墳と比べ、圧倒的な数と種類であると言えます。

下は冑と鎧です。このように武器や武具など多くの品が出土している金鈴塚古墳は、東日本の古墳研究資料としては一級品であると言えます。

冑と鎧



かぶつちたち
頭椎大刀

たんりゅうかんとうたち
単龍環頭大刀

そうりゅうかんとうたち
双龍環頭大刀

しがみかんとうたち
獅嚙環頭大刀

つかがしら
いろいろな形の柄頭



馬具類

上の馬は古代馬を復元した模型です。国や地域を治めていた大王や首長たちは、上の馬具などを使い馬を飾りたてて自分たちの力を示していたと思われます。

銅鏡



左は儀式などで使われた銅鏡です。

鏡自体が^{しんこう}信仰や^{けんりよく}権力の^{しょうちよう}象徴であったとも言われています。

何か神秘的なパワーを感じることができます！

未来に受け継ぐ木更津の宝物

古墳の出土品の再整理

木更津市では平成22年度から古墳の出土品の再整理を行い、令和2年3月に『金鈴塚古墳出土品再整理報告書』を刊行しました。

それでも、金鈴塚古墳は多くの謎が残っていて、古墳の主な^{あるじ}などすべてが^{かいめい}解明されてはいません。

博物館で待ってるよ！

これらの「宝物」は、^{おおだやま}太田山公園にある「木更津市郷土博物館金のすず」で身近に見ることができます。みなさんもこの機会に博物館へ行ってみてはいかがでしょうか？

知識が豊富で優しい学芸員^{がくげいん}から展示品などの説明を気軽に受けることができます。

博物館に足を運んで実際に見ることでより一層興味が増すことと思います。その積み重ねの中から、現在分かっていない謎の部分が^{こうこがくしゃ}解明されたり、未来の考古学者が誕生するかも知れませんね。



木更津市郷土博物館金のすず ご利用案内



所在地：千葉県木更津市太田二丁目16番2号

電話：0438-23-0011

開館時間：午前9時～午後5時

(入館時間は午後4時30分まで)

休館日：月曜日

(祝日にあたる場合は翌日、年末年始12/28～1/4)

観覧料無料 (特別展開催時のみ有料となる場合があります)

アクセス案内

- ◎JR木更津駅東口から徒歩20分
- ◎東京湾アクアライン 袖ヶ浦ICから車で15分
- ◎館山自動車道 木更津南ICから車で10分
木更津北ICから車で15分



令和6年4月12日発行

編集・発行 木更津市教育委員会
印刷 協和電子印刷株式会社